

ISO/IEC/JIS Plastics 事務局便り

2019 年度電気材料安全・規格委員会 活動概況

電気材料安全・規格委員会は、電気製品に使用されるプラスチックの安全性や規格の要請に対し、当業界の意向も加味しながら適切に応える活動を行っている。参加委員はプラ工連所属の各業界団体、および専門的な知識を有する特別委員より構成されている。

主な活動内容は、隔月年6回の委員会、および電気安全に係る部品の材料登録・規格・国内外法規制・関連機関団体の会議に当該委員を派遣・出席させ、情報収集や検討を行う事。特に、規格の国内委員会や国際会議に委員を派遣し、材料の設計・評価・用途等について意見を提出し、日本の意向を規格・基準へ反映させる事、である。¹⁾

また、関連団体とも情報交換を行い、相互理解を深めている。

1. CMJ(電気用品部品・材料認証評議会)関係

CMJ 材料部会に委員を派遣し、耐トラッキング性試験の JIS 規格(JIS C 2134)改正動向について情報収集を行っている。JIS に影響を与える対応規格 IEC60112 の改訂作業は FDIS に進み、その内容に対して CMJ に大きな影響はないことを確認した。CMJ に関連するグローワイヤ関連規格も IEC で改正作業が進んでおり、動向を注視中。

2. IEC 関係

1) TC89 (耐火性試験)

5月の国際会議(ライデン/オランダ)では、グローワイヤ試験関連(IEC60695-2-10、11、12、13)で用語の定義の整合化等が議論され、10月の国際会議(上海/中国)で、IEC60695-4(用語)のIS発行を始め、複数のグローワイヤ規格の審議が次ステージへと進んだ。IECの環境諮問委員会(ACEA)のACEA/266/DC(ハロゲン含有に関する用語の定義に関するガイドの委員会提案)に対して、TC89は是認せず参照もしないことをACEAに報告することにした。TC89のタイトルの和文名が“耐火性試験”から“火災危険性試験”に変更となる。

2) TC108 (オーディオ・ビデオ、情報機器、通信技術分野における電子機器の安全性)

情報通信機器の安全規格のIEC60950-1とAV機器の安全規格のIEC60065が、電気製品の含有物質の測定関連のIEC 62368-1(Ed. 2)に統合される。

3) TC111 (電気・電子機器、システムの環境規格)

ISO/TC61/SC5(プラスチック/物理・化学的性質)とのJWGであるIEC/TC111/JWG14に関連する国内発足のIEC/TC111_ISO/TC61_JWG対応PGに委員派遣を行った。JWG14のタイトルとスコープについて議論が重ねられ、10月の上海国際会議にて、タイトルは「ポリマー中の含有物質の試験方法の標準化」、スコープは「IEC及びISOが規格の共同開発の必要性を認識したプラスチック中の特定化学物質の試験方法の標準化」とすることに対してIECとISOの双方で確認作業に入ることが決まった。JWG ECDでIEC62430 Ed2.0(環境配慮設計、IEC/ISOダブルロゴ規格)がIS発行された。TC111も前述のACEA/266/DCに関し、日本は疑義コメントを提出しており、動向を注視中。

4) TC112(電気絶縁材料及びシステムの評価と認定)

IEC60216-3(熱的耐久性の計算の手引き)、同-5(絶縁材料のRTEの求め方)、同-6(絶縁材料の固定時間枠法によるTI及びRTEの求め方)、IEC TS60216-7-1(長期耐熱の促進試験法)、同-7-2(IEC TS60216-7-1の手順を立証するRRT結果)の審議を実施した。IEC 62631-3-2(表面抵抗、表面抵抗率)は表面抵抗測定法(C電極とE電極)のRRTを企画中。IEC60112(保証及び比較耐トラッキング指数)がようやくFDISに進み、耐火性JIS原案作成委員会にてJIS C 2134の改正原案作業がほぼ完成した。

3. UL 関係

1) STP (規格技術パネ) 会議

2019年9月に開催された UL94/746STP 会議(ノースブルック/米国)に、当委員会からも委員を派遣した。プラスチック関連のUL規格の開発・改正に対する審議に参加し、動向を把握すると共に、適正な規格作りに貢献している。

(引用文献)

1) プラスチックス 2019.8 ISO/IEC/JIS Plastics 事務局便り

2019年度電気材料安全・規格委員会 委員長

報告：日本プラスチック工業連盟

尾座本 孝一 (JNC石油化学株式会社)